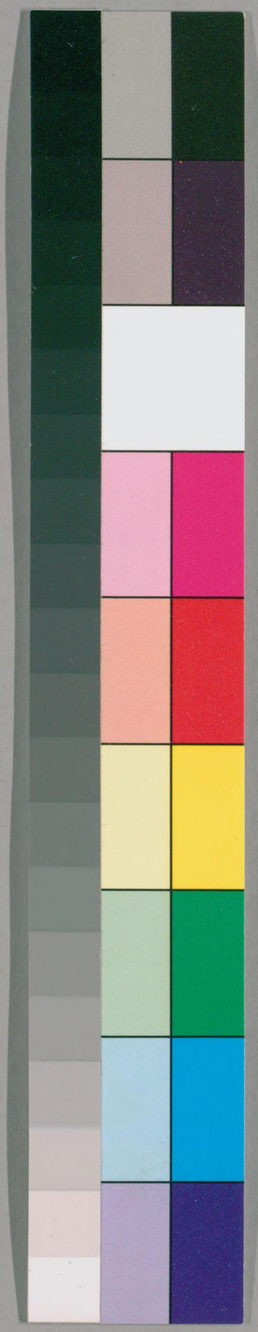
丹鶴叢書

忍音物語 下

117
105
2

東京圖書館
和書門
叢書類
別 函
三 架
二 號
一〇五 冊



国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

東京圖書館藏

故柳原芳埜納本

祀原家藏

まことにゆのしとおほしいりそのちにうぐさてそ思ひハ
かしうぐらなるまぬるにやいのなるこしをさまのてゑて
おのひ出のるらんまくしきくおとうちまやとせちに
の給へハ内侍もいとうしけなくふと思ひ出しまゝに
奏しくるに出の所さまの日にそへて志つゝ給へハいの
なるべきにかとんくるしくて几帳おしのたくなと
さのゝかくそおほしいるそ人のつゝきそとそ中侍出
なりしやまくおかしなしもまくしまゝしくおを
せよおほいとのきゝ給ちんにもすくしのひあるさまに
くれそよく侍らめ中納そとのもまことに御心さし

（へのみるさひに一本）

（の一本）

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

かたらはれたのやうのよはあるとしたらを給はぬまとはの
らしたつ日まゝへ々見ともんもとなくいふをきハうつろ
ふのこの源さふこそ侍らめさのこおほし（むつしく一本）志はまさく
ものなともアん入まへうへまたのく此人侍るとそうし
侍見まていこくまゐらせよとのこおほをらるそのかなく
志きたちなりたまいそあらめみつりたいそよりまつ見
といと（ほ一本）まゐ日をかきこふかたりふまゐを給くたてし
おくさ給まへとくなるこふぬ見たる御くしときくし
ぬ見（志と一本）まへる御そかへ（ナシ一本）をまなとたるふ文はうへもなら
ま称ハたへさおもちもを給又いつしの世ふありとさられ

忍音

をらんも中納言度のおほさんでとはまし（も一本）むとめ（人目一本）ん
そもなくさむへきたいなくもたいそあらめうきふまされ
ぬたいむしさのぬ見たて姿さむ見たておもの（の一本）てたちそい
そ志のまんとは見と志（も一本）のまし見ぬをかくてそいくなと
あるへさんちもを称はおこなりをもせもやとのみ
おほしく（せハ一本）内侍の所まいなくさむるもうらめしくたく（て一本）
むきかつきくふし給へるふ毎うへもこまへあはりいて
内侍のおほさんとし詠もこのつまのこまらいてたお
もい給（ほしめさぬの一本）たはや人のつらきをおもふてそをたいまし
見とせめてます見給ふやうふとおほしくとうくのまへ

[illegible]

忍音

[illegible]

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

そのをとゝくとふのくふなくさむはかまの（たまへとも一本）ゆゑ
やはなくさむくしきもなきをおほしまつらひくいの
なる人をいひのふらむかくさひそよかろいひなきまし
このハかはかまきしけれ給はしおそはぬ人をさふハ我のこ
くるしきとおかをとらるれハいのるまさろしめしとる
まやといろのおふこのこはらいくくかををむさい
しくなのれのへハさりやあかんくるしやとくむもくるれ
（ても一本）
はかつらせ給ひくもなかいのふをへきなとおほしまつ
らひくないしをめしく此人よめはかつないみしく
ものさひくるさまあるをはさみなとこまかくせまく

忍音

今ハいのなりともなくさむへきくしきもなきをよく
いひをしへよとおほせらるしハさしはよ所ふうつろ
ひふくりとゝんをまくまつのられなくさゝんにハよらし
とゝんをまるを於ゆなくさめにこそとゝをまて何ことを
かくそおかひほしまらんそこにしらぬことゝらしき
このせよとれのへハんよいしくとひ侍ることも侍らねハ
みつのら又とはのこまもなふかしはへらんとそうけ
るにそのあしき中納言あまのまのおかひのなくさゝん（小一本）
かねくうちつくまにたくまみゆまきてなのめおハを
るなとにやまあるしにふまあらしく

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

あるゝ日ふえ。（うち一本）嫗きゝくおもひ給ひは御門きゝつゝめして
きんぬ孫のおいなるへとめせハまゐるまゐふまんたうの
うきおまものおもなかしいとも孔やふにむきつくろひ
給へとみつからのくしき。（いつとなく一本）ものおほしたるさまにてとも
も見ハなかめうちしほくなることをうけ給へハ御門あ
やしくおのころ（ハ一本）ものんほそくふこゆるハなかたゝに
ハあらし何ことならんとおもひ給ふそし此我（ナシ一本）心かゝる（とそらん一本）
人のことをやおもふらし。（ん一本）（本ノよいまきれハひとつなるをこしいかやうなるてやあらん一本）まこおなる人もいとうう
ひ志ほこゝるハそしあらぬまゝ孔ま見ハ心ひもなる見
かゝきにや大将のむきめにおのゝ給ふなるをさやう

のゝ見ふおもひうんしゝまの内侍を志るへにやまゝのひ出
つらんそしさもあらハまゝのひにはしらんハおとうとうそのし
ま見も女なるまゝしハ中納言にハいのなるこそうさまゝ
ても志てひりへきおちてそ見文志の人もをとこ乃
んまゝのむぬへきさまゝ見ていつのこもいまなき。（ん一本）思ひも
おとうりにてそまゝ給ふのいふことにはなむのめもおほしう
ふのくんをとゝめ給ふにてそとおほしよるに。（も一本）孫さきもの
のうあまゝ見ハ御らんをいみしくおそおとろへ（もひ一本）やをら
見て（け一本）れさてしもみまゝしさきまの志てることそいまな
ゝ見とゝくほゝ志まゝを給へハんのうちりおもふまゝ乃

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2

ガラス使用

いとしきうやをあをこのへるをんくるしとゆんちまひ
御をいなとをこうへのくるつのらまかなのふやうにてをしめ
給へとさらに(も一本)にしきまかをふくうちおさ給へいてる詠
くるしくそあまし人の御ゆくへいまをしきをのまを
やとこむのへいをつ孫をへることのなる丑をいのふしく(ての一本)
志を傳らんといひもあへ(やり一本)給をしやて御なるこくみ
給へいまをの君も法くしまかを(やく一本)給ひてをて君いい法
くへおをしけるそあてををてをてとう法くしなまのへ
をまの詠このなるらんをりも丞しのるつきかとのこまのへい
うちうなつさくおをしるのかのをて丞しとゆふ人を

をかふとす詠なるを丑いあをし丑よりしなのを入(十三一本)ふ乃
ほうしのなを世まあるつきゆ月ふもあらぬをとゝふかく
ふむねのさの丑(ミ一本)まさるそいとのなのしきせめくのん
やり所(ナシ一本)ふ引つくろひて内へまゐを給へをやこのき
く丑をくふを丑丑ハ御(おまへふ一本)あそひあるつきとくきんつ孫
たつ孫おをしまゐなとなるを丑丑ハ御しきよくそ
ふのこをしいのとを御らんを丑しをあるしふもあら
をやをしとしていとしなまゐんとのしくうちふをひる
まみくちはさなとを御めとしめてまゐりし丑しきまふ
ハ丑ふをしもなる丑そゑんをしらん女ハこのなるらしきふハ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

いまのまなんといろめりしき御んにおもきまして心を
すてし御らんしましてく
人志ほ心をしくほの神やまてなかこの雨に
消やすこらむとうちきむし給ひて中納言のうたを
みおきを給へる御まし事のきのまつりしけにしし
うちこゑまのせまへハ我さよんのうちきるこゑゆるにやと
かかうちあるむてちしてきてもきらぬやうにくさ姫
らひまに御あそむまて出いの志のひ孫りけらせ
給ひて笑えさなまに中納言のいつとなる出とまに
さらものおもひたるにしきのこんえ法るに忍ひあはまる

ものきちおもひいるをとうしなくかうりてなくさみ
給へりしまに給ハものいひせぬものそよ人にかたをとゝ
もいとよくかくしてむこののくしまて法こふのなる物
をなとうるされにとも吹えてきふ出させまに出いの
めをもみあませまらひのくく人とまてまのて給へるに
中納言をきちにてまりてなのめありき給ふに志よ
きやうてんのあたりを何とかきやうにくこさくまへも
人のものいふこゑの志のむくにきさゆ出ハあやしくて
御いのとの此て給ハまるまゐるとも吹えぬに此御つ
ほ孫へ志くけらせまへるかういなとの御んに志こそ

るゝさ（たし一本）ふてひまふゝとおほつ（あやし一本）のなくてやをてらまちさし（う一本）
たかくハうゑの御ちゑにくものおりふなるまてくるしき
ものそよ此志のむ孫のつきをぬけてあまりいふをさ
まさなのしさ（よし一本）しとまゝ詠をふくしとおもひ給ふもこと
わるそそしひあまれる人のまゝまれハ〻ふいのもうの人
ふのんをうけし（つくし一本）給まんみるまゝふあいさやうほさう
けくしきたいとのなくひなきをまゝろ女なりまゝしのかゝ
志やうとのむとのくなるまとも此人をえ給てまかるへし
とそおほえぬさまのさてくるをなかいのなりましたいとに
かくあくしき給ふそさしとのこしひハよしなきまゝろ

忍音

ハさやうふものハおもはせ（せなる一本）ゆしきを（とれ）けぬくとの給ませる
御こゑの中ゆしハなのほあやしのまさやとおもひてむま
をもとめ給ふふましらのそれふ虫のくひるあれ乃
あしまをしやこゆるとれそさのふふ（されハ一本）うへのおもしま
まおく（ほそその一本）のふふうまれのまいくうひくかさなりくる袖
くちあをきむとくあてさまかみ（そまふ一本）のまそのうち
むろちまるやうふくほのくえゆるゝれとハさる
のふんとの給ひてくるたいとのもあやしきふむ孫
うちさまれくなのたちれのてまゝをまゝ給へハ此人を
御むさふかきよせくなほのくんつ（ら一本）おさハかへまゝ

いとふむんなるまさこのおいまゝかく人にまゝまゝれて
なるまゝぬんよやめさまゝしきおいちこそまゝ出とてこそこ
出かまゝるこのみをかきのんぬへいそてをのほにおしあ
てゝ志のいのけになくさまゝ乃まゝかゝ屋ゝもあらぬ
をこゝはんのゝにむ孫ハおとにもきこゝんぬへくさまれて
後さへすみいつるをなれむのめよやとめを法んこる
（おしあてゝ一本）
すかほに神をおれむくひきもたゝぬハいいのに
ゝふにはらさのまゝさるとゝやかいとまそとてそてを
門のをのへハなきあのゝんのへるのかのまてそ出とこゝ
まにさらにいまんのゝ形くあさまゝしくものなしくも
（う出ゝ一本）

忍音

おほえゝ志ましまちのゝにはゝ法也なむきたてまゝ川る
（へとも一本）
ゝしきもなしやあまゝくうへそかへらをなましまゝ次
まゝたちのへらせのひくいまんのゝなさゝまゝこつ
のらさへうらゝしくいそおれ也出かく人にを出志
かゝ人そあらしとおりゝなにはのらゝおほしこゝる
（本ノ）御ゝしきさるゝ出まゝかのゝにみ也るおものけの悪し
言出まゝ又まちよりも結そさ結へハ出れふしく髪
乃ゆくへも志ら次なき結へるさまのやそうち入こ
もなくさゝんまゝかしくおほをとも人めも法おしくて
みつゝへとりゝ御をゐ志んに御をしまめしく御たらん一本

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

忍者

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2

ガラス使用

おもひるをおとろしきまはいのむつりしきことしおそ
えくゆゑも入給ぬを中納言度乃ゆゑにおもしまひ
とさすしめしける御文なるまとも（ならん一本）ゆゑ一本をおきてのりて
見給ふに（へはまてにあり一本）夢うけしとも思ひ給ひ次むねうちさはきて
せんのこもなしまつ御かへまことにくしきすゆゑ
我よもあらひのきすゑ

うれの宮にあくての日出し月のけ（はなみ一本）はそこなの心
なく新やうえなんんよりほのなるまゝひはむよそへて
いとうくとまのつまかき給ふ中納言の君もいのこ給ハ
御心をとらんとまやとるむるうへのつくしせるへハいのこ

まへきとおもひはつらふに今我はいきてんのまゝなるま
給へるさしきこゆゑまてよさむまゝ御おもひて入をる
まかひの御心乃中なのしおしまるる所しの御を
うらみのつまおくさゝんともなきこつきせ（のさきたつとかきうなし一本）ゆおもせさ
なし日よりいのなる山のおくまてもこれ御ちかく侍
しうともいつくにいのにしく住まふらんとこに御ゆくへ
乃きうまかりしさに今まて世にたちまふ心の中ハいの
まかつまとうおほしつるさゝしとも（ゆのし一本）かくてさぬらひまへを
さてゝめていとめてこのるへきすれ（ナシ一本）（はためハ一本）（はてとにもあるうな一本）まこのるまくせにこく
ハいそんうきを殿（も一本）もおほしよりけめ何とも此世むと

つなからぬ事とおほしく今ハうへ乃御心に志ことひ事
を給へ（やめく一本）と給ふ（ミ一本）しと思ひ給ふるつゝ御あとうまを
おかしまゐらせて御心にかけさせ給へ（今生一本）つゝ此世い
くらとなからぬ事となれ給ふ事をもあきらか
に志とみのくまくこそかゝこのゝめんのこゝろハおこな
ひて給ふすゝしき道におもむきなれ九ゐんのうて
なにはおなしまちまの座をとまをてまゐたてまつら
ん此世の事（けさん一本）いめんハ事ハよひ給ふこそこのさまなら給ん
（何やうやともの一本）と給ふ御おほしこゝろ事とくさふらひつゝ給へのくまにて
ちゝの御さまをもいとむんなきことなれ事と（も一本）いまて御

心とをぬ事とくゝんなきまゐらせハ今むとくひハ何のくるし
かゝまゐらせ給ひ侍ましくそやい（ナシ本）のなる程の末にて
も御ことの口を見とのこさに孫んふりもさまる（ゆきなる一本）屋きと
おもふこそかゝ孫くよりんうゝ見といむ法ゝくなれ給へ
ましを姫君の（ハ本）御心中いとゝ（うそう一本）のなしく。後（おかさそ一本）ふむをむく
そのも此給ひ人めつまゐらせ見てあるつゝに中納言
とのハかへまゐふりこやう乃としのく見（ふも一本）なの見ハ内にて望
もまなやうに今めりしきまゐとおほしく（一本）まゐるにも御心
ハまゐ此志のむね乃君にのみ御心を法くさをおもし
まゐ後姫君ハ中納言後にしよりハいとうへ

のおもしまゐをまもおさたまあのまゐ給ひ内侍な
とはいとむんなきさやとふまうちとてこえ申すふまこそ（ナシ一本）か
くともけしきをこふとの御祓め（ナシ一本）りしくもてなしこくお
ませよとおもへと母妻ふあらんとゐまこそむんなき
さやもおもはんとおほえくいのれるむまもあらはかみ
をそきおとしくまや（ナシ一本）とおほして中納言の君（とゝは女房一本）よ
かこ乃さのこおむゆくかむいのしきふすそをそれてもや
とゝふふまさみすへと何（ハいつふあるらんと一本）とおきやうふの給へはおほ
やうなるゐしとおほえて御うつ（はさきこゝは若君の御出とうふごとせまひし久さふらはゝこゝ）ゐむのふまのなりし
ふ君のふし（もしちまくてゐとゆせハ一本）志御ゐまるまゐなくおもしまゐふこ口つらひ

侍まこくさやうのもおもりへ志まもたゐとゆをハいふ
くちをしくまゐしをたのむへきかくもなき（よ一本）ぢめまと
この祓しくく（よのまのおとふ一本）いのふしてきこえうをもやとおほえて（一本）御
湯をこふ入給ひ（ぬとも一本）かきまゐる御命乃んよまの
せぬとのこうらめしくぢ（て一本）りしまの仏りうへのこうらせ
たまふとさはいよくうほくしけなるさまをもアんえこ
てまつらしとかこのほのりへもしら次のみよむふま
もまこえくし給ひやつ此給へと母なのくうほくしさ
だくひ（の一本）かゝまゐていのふやりまゐへともおほしうしむ（とれ）さ
なし（そなうゐる一本）中納言ゐまゐまゐくうへをみまるふほくても

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

しひよろ法をはる御すてせのかとはくくとまゐらせ
まふもまゐらせのにおほしめさむといとおほ詠し年あ
けぬ是れ春の是のまれていつくもいとめてきくのとやう
なるにも御ナシ一本心をとりはれ是しもうまてそとおほせも
なにはくもめのみとまゐらせの姫きみのおほ
せさつしさきに何となく時ものをもの給し浣乃
侍従の内侍なともそのちはまてたのさ所なさてもうり
にくゝなるなとゝまり給ふことをてなうましもうらぬしく
おりふらんとあれ是にくきまゐらせ以れん所にて人もなく
うちなのこのゑんおほ給ふに思ひのけて出のへパリとゝ給て

忍音

いとしうらみ給ふむは何とやうむものんほそくて
世にたちまふ事もあら孫はんよりおのとゝえをなと
ことせ給ひぬとうらみまへもきかのつらさになし
くかとてうちまゐらひきるもにくりに次志のも是むと
おほしうくや志をしたまふ是とく又志にきやう敵乃
このこのめてうに書てきこそ姫えをいとおりし詠くふき
給へはうへまて是いのはりにおほしまゐらしきをぬ御々
しきをはりらへの孫させおはしまゐに此ふえの孫は
きうそこさて志を給へるやとせちうけどもせきまへと
なにこのいらへ給ひんうちうけふしておほゐるに御門は

中納言はかゝるにつけてもおほしよりてこなたへとゝめ
たまはんとおもへとの給ふにしたかひやうきんへと人のこゝろも
はらはらとおほしつゝ中にもおもひ給ふにもちかきころは
まゐりつるのよみちのこともかくしてまゐらてさぬらちやうし
そめたるかをとゝめおきける所なるほとにもそれやうなるさまぬ
きなるひとのもとにはやをとゝめくるしもいふよしなく
うちはしことさまのなるうちに八女君をうちよせ給ひてあはれと
給へる中にもまたぬもむとうちなるあはれさまのわれら
にあはれとなのめなるへと申さんかたはのおほむらとあく
しかしりめしたるにてとくちゞく所経より後の

そのほとりたるきんつ給ひてみしくんをこゝまて三も
はきて今のこゝろしに何よくもおとらるはまて
うちこりしこまつまてぬるをといとおもひ給ふとふさのよ
うへしむきみ琴のあそせく志て律給はあそひつる
んなとてとさしゝやうのし給ふ中納言をとこをのう
ちとひやるにもさうなるへくこそおもひらめとむねも
しのなるはちよひのつまてよもしとゝそうくの
ほとうかしくおほしめすんとかくしくさこゝさはしは
をてしふこさうしくまちつよをなとこくたちぬるそ
しりくたのこゝあはれのやうかめのさせのよさく

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2

ガラス使用

給へハ姫こんもいとあはれにおほしたりあるゝ日もとゝ
まのつまのふに人こもおかしめしなかしまるふことゝめて
かまくうまつしとゝ（そこに一本）ひてくはこのうまつる大将（已下ナシ一本）度もすつ給
ゆきこくいとなかこのしつき給ふ（已上）まさ乃ありさて出のふ
とそしたいまこまの給ひのかへまゝまゝゐらんほとすいまこまおさ
のへとくこまの出に月出しこくいまくかゝまゝる御あ
ふきとしたるふめし給へるあやの御そのなよらこのかるを（へ一本）
おさ給へはまく今このくかさまとおほしめしたていのて
このさつりのふつきこゝろまくおさのふおまくの女房をちも（ナシ一本）
口のきふもおいてるふもおとはなほのしくかてのひてもの（う一本）

忍音

よりかへり侍らはまゐまいんとこくに給さしもおはさぬ
あさりなほとも今をかきりとおほをていと衣なりさ
こく殿へおはしくおとさら川つくろひ花やふ御さう
そくし給ひいまむとこひうへをも又さらぬむとくをも
見ぬまらんとおほしこくまゐまのへハまく今まりとふふ
ふ後のおほるをまさらはしつてさふらひ給へハうへは
御らんしこくはきせぬものおもはしさのこまいそんくるし
をまと御らるまいハおはしものへまうほるまの侍まて
こくまゐまかへまほらんとそうし給いつこそこらやはし
くおいそ北のこまのたほまて（へハ一本）鞍馬のうへと。奏（まゐり一本）しこくあまま

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2

ガラス使用

まてしく是にて今一度殿の所のほをもあこをもつん
侍らんといとよくすのし給へハあやふくさてくまつ
いはくまゐくもくしてくおはせよとてくもちのいともお
ほえ侍中納言にとりつきてくまゐ是に給はれ孫ハんく
るしくかなしさせんのこなくとすのしまるはしてある
ゆしいはくまてもあまそふ是きものな是にて此是を
いてゐん侍らんとく所志あすあふきをおさまふいとの
やしとおもひ給ひてせんのこなくてかきまへハなさて
なくふまてしてハいのてに出のふへきな是をいらく
へのふほとに我も明のこにあるにぬもしこなくなりぬ

忍音

ほとに出侍くく是ハいとく所むのへにまゐらんまとへくし
まるともあのくな是にていとくしくるしかしむまこさま
とく此まゐるへきなしほさやうによりいしく侍なへと
まのことしくいひをしへて出のふめんまうまも姫きみ
おくり給ふけんつよくておほしまたちな是にて此是
をかきりとおほをまてあまひのをの月くまなきにまち
ごまりて筆まてとく所むのへにまゐらんよとて所しの
かをはくとゐん給へハいみしうなきまた是にてる所のか
乃いよくむのるやうに志給ううほくし是ハ此くしを
かきやうくかくとのおもはせまてまつるへきなとぬ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2

ガラス使用

とくあなたへまゐるとて川とめてよしまゐらせしくかき
たてえそやうひ七日まかりのたひそと（えま一本）ぬのへハ御とのの
あふらあのかけ（うきたてく一本）くんをまるまゐ（辻ハ一本）何人なく孫
いつも給へるをこのきいてさうくあてまゐ（よ一本）給へのまゐるを
まるそおとろきみのへとの給へハ殿のおもしまるの
毎君にとく御（ぬめハあらはあらう一本）とさしおそ（あけ一本）（あけ一本）いこの辺のまゐ御くしまて
めさしにおひてぬ（ゑのそのあてゐきくるやうてす一本）まてあくまて志給く法ふしとてえ
てまみのかとまてえよく似のへ（るかうのあさ辻ま一本）ま今なくて川の
世にかまてゐるへきとおれ（セハ中ゝ一本）にかきくしんちまへの
たゞ辻まてゐんのとのうへゆつを給ひてものよりのへん

ゐとてめまゐらせくいらかしくせよとて出のふのうく
しいこと辻まて御馬にのまゐまゐ（ゆ）とゆめ
ちにまゐまゐ（ゆ）ちしく横川といふ所へおもしまて
まかゐくよりまゐ辻しまにのく志ゆ川をのゐさし（とこそ一本）
とその給ひまゐ（ねとも一本）まゐまゐくほうもんの志ゐいをもうけ
給ひらんとの給おきしまゐ辻よてさふてそ心思ひ
入まるにいみしくんをそんまく志ゆ（さ一本）津んのよりとの給
へまゐしまたきにおとろきおほいとの御ふまゐ
ひまゐらせくいの志侍らんそのうへ（ふ一本）かゝまゐらしき御
身を今やはしまてさせ給ひしも御ふまてこそ侍

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

いひなりぬ。あまりまさしくつきをひこりぬ事もおかしく
そつまおとしく茂乃宿まなりぬ君をかまりそむ
き給ひしも女君のおもひて男をそひて祢ふりも
ちゝ語きこなくまさしくそのなしきかくて家をも
おほいとのに中納言後々さきのまゐりてとて出ゐりし
きて語男一人めしくさせ給ときこゝ也まさしくその君の
抱まゐりなりハ何しにかく人をもつまし給はさらん
とおほしさつきこゝおもしまし所を殿母うへ御らん
ちまハ御文ふこりあるまむとつて小の御のうへとあり
一ツもて志のまさやうてんの中納言の法を祢へ此そ

かき給へる小の御ふこあてきこのへもさきくも此世にくハ
御めにのこるつきことの侍るまゐしきおそ祢ふ侍まとも
菩提の岸にいてまなれ給ちの世乃やうをもる人を
らむ男とも侍る夢幻の世中に法こゝのきまと
ふくあのしくこゝをかつもやくなきことれまさても
あこゝ事を我なのしんあとにのこゝみとおほしめして
いとほしく志のへおとなしくもあつまし侍らハ殿上せさ勢
そうへのけさんにいまし給へ此文乃中の志まさやう
てんの御ひ見へ法をさせおもしまゐせなり此まゐし此
かまさるをとん給に母うへ乃御心のうち中にたとへん

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

のこゝろのしむとおほをもてさのこむりのしくせハふれも
志ゐまれ日数（志まし一本）ふるまゝにいよ〳〵なきまゝにうへ
ひさしせずて今ハいのにおりふともかひあるへきこのハちの
らなのきまいとおもひなしそ おもせよの心なくさめのふ
そもかなしきことの紀つなしかくし法ゝ五月にもかぬ
（くるしきふ一本）
五月雨志をうち出しまの所くこの志の（きくのうさるそうを一本）ハいとくおもひの
まさつきくおひしき人をゆめにもみんもやとおもせた
まとろまねハ夢もなし夢の君をなりと母いのにしく
みるひさしてんとおほしなるさくり此をて所あふきを
ひきて出このこみと所らんしそ

忍音

うき人のかこゝのあふきをつむくなきをさ
そふ風そふきそふとうちなのめくさくし給おひ後
（もうらめし一本）
少のこゝ日にそへておほしなくさむよ所くなきおひのすへと
もかひなし夢の君ハ何とておもせさらんとてなき給
（そりく一本）
へハいとく後もよおきまこくせめてとく七月になつまのへの
し内へまゐらせて中納言とおもはんとあるく出いと
ほしきおとよしのふ山ゐのゆるの中納言ハ詠ものの
つまておとなひのへともなのあるしおもかなのとも
出ハおひむしくおほしまきてよの所くきさこ法ゝ給ふ
山法の義に所後あらそひて墨染の所をてかなく

よもなく志れぬ給へる秋にもなりぬ心ものゝ心へのまゝ
ちしをいろ〳〵にみんゆるすもかく世をそむきたりへ
きたしめにてそあるし説峰にくんそゆんしもさの世
もかつての契なるし此おほしいつるにせて今のこちら
しらく思しきさせかきりなし（おほし一本）即ちはとかく心をとるも
たまへともさらにえとことものは返るもし給ひて
てにそのいらしもえ出ぬあくる春になれども姫君の御
おもひあらはまるへくもなしうへはあまりにけしのらぬ
ことにおほしらく内侍にせて法出ことまゐ出みつらの
心にまゐのせていいつのかきをゆるへきいとむくはきは

忍音

さこのちにのるためしやはあるまゐ法のかくしをはらしせる
たてそいまにおもえて口出とし三とおもふあるさやきさ
そらなくしをこゝるにさらにはなるむきこのこゝきはちきりとか
うそにくしといふらんことにや今は中納言も都になて
出はたらかるつきすもあらはそこにまゐ
やのにはらしとおほしらくきてえさせるへは即ちとりに
かたしをなくおほえくはれ移へのへまくまゐ出ほとす
なくさめをまるになるかかく志りしのまゝ毎うへもこつら
引くしいつちへもまゐなんせて一和（これに一本）ぞれおもしまさん（せよ一本）
さらはそよのはれ口にくみやはのへもし給へ即ん乃

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

ゆのさらんほとそうへもむこふるまおほしよるるまあら
しまつまゐまくゐんのへとやうくよくときて御くし
かきくしも後まぬまぬ御衣めしのへさせなとしく
内侍つくろひまてまゐ（すくめ一本）ぽゐ（うたへ一本）ぬまゐへハうへハいとうまし此
おほしそうへ内侍よりかうせおもしほしくすそし
ゐてそおもしまほ志の心祢の内侍といはんとてうち
まらハせ給へハまさ俗の後さきたちくすうつふき
くゐまへハ法ゐ日にくさせあらめてにくなるこおと
まそいむなるまとそとくこかくなくさめ給へともまく
もしのしくもかなしくもおほしくんゆくりしきもなし

忍音

さのこ人のんを法くさせまふてそいとうりなる事此三とせ
ハいとうり御んにまさのひくるしきぬ今ハまうしあまれ
ともおひまへのし此いろくに吹えまへハ内侍いのなる
とそやうへの御返しせぬハいとむんなきるまそとの給
く内侍そ局へおままへもいの志の心祢もやうてまって
給ふ毋うへも。今ハ我をおもさそうへの御んにまさのひ（内侍も一本）
こまへさのこおやにんくるしきまとなこせまひそうせ給
ひし中納こ度もさてそくりかへしの給ひおきしかれ（ゐ一本）
むとのんをこてもまたきまとあらしとかんおもひ
（おこし一本）さまりてもむくしくもてなしくゐんえまつまへむん

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

さりとて見ゆ見えてうへハなのめなるに御説しく日下詠
後にうけも見て志ほみふしてるをさへうけらしく思
ひしよすてし引けくろひ給へもさらに此よの人とも見
えぬ志見をうしなひて世をそむくらんもおとこ見
そのしまの詠も今より詠のこ付る一本見えて悪しかりなん
此あの御おほしめ次々ふれ夜のえんある事しとく
口のき人とまゐ見けとひものゝ孫とも志るへ御そひまへハ
うへ志一本のひ孫の内侍所そもにおのせ給へ一本あの御そふ
人との中にもあつし中納言此さまし人そなん
見さまかたち一本ちもかつもにもあらぬ姫きまつるものゝ孫

忍音

と母うちきくよりすゝ詠に見ましみくおほやる一本乃
けさをけつし志そ悪しく何とにけたてもたえ
なきんちれまるをおかしんにおのふ人もあらんとも
御らんしおこせ給へハかほうちあの先くまいなこと
おつ見えあふきにくまきらはしまへるさまのんくり
けなる一本月日もすきりにさのこいのゝ志ほこ給ひん
せちにこそふ見さ勢給へハんなるにうちロらひ給へる一本をも
あ見ハうへハめけらしくうれしきさとにおほしなして一本ナシ志乃
ほそまことの御つかひへもおもしまさ候ひるそひく
らし志めつもおもしまはくるれハ御つのひむまなきを

人ハ一本をこのまゐ事給とも申えぬにかくはめきたまふと
さゝめくあくる春の夜をさへうこをまつるへいまゝ
まうし（御子一本）もおもしまゐ（セ一本）ぬことをとゝちをしくおほしめ
けいとうしくめつらしくおほしめさしく御さい
もひ乃めてたきことかきつゝ別しやうて志ゐさやうてん
乃女御とさきにもいふ夜ハ二川にてまゐにゐさ給
給へハ女御きさきにをもちまひぬ中納言ハ御いゆう
ときりつゝの御のこさにて御身のいきほひといひうへの
御おほえならひなのつしかハ若ゑもむ給ひてうかひ
もなき店にてそをもち給ひんすると世の人もおもひ

殿（ゑ一本）もおほしつゝにおほえぬ人俄にむきてかくおさしし
ぬるにしくちをしくおほしまゐことやおほい
とのゝ夜若ハ七になるまゐへを殿上せさをまゐ給うへ
御らんしてく中納言にまゝ似てりをるのなうけしき
このほのあいきやうハ中夜にほのよひ給へるにいとかし
くおほして明くまし御そをにおもの世おもしまゐ本夜
ハ（ナシ一本）御らんするまゐことにをてそむきにあ（あまし一本）ゐ人にてハぬ
をあれまにおほしめしてあるはうへのひとゝせ給ひ
ぬむまゐ御そをへよ（ひよ一本）ませ給て我をそおもえのを
ぬのとゝひのこまゐ（ナシ一本）せ給へハうちうけふさておもひ

ちゝ君のごとおほゆるかとの給へハそ見えてほのかにおぼ
え侍るとゝ後くゝ給ひてやのてこれ見ぬへ事れて
まのきゝたし給ひいとしたよりさ見えて中文もなりせ
さまゝふ見ともさまをもかへてあらまほしきれとも
ゝまゝのせ給まさ出てとのゝ給ひしさ給ひ給ひ
おひゆく一本 そよいますてしおとなしくなり給ひて山ちのも
の人をも尋称りへをも呼ぬへとおまくとかたりまてさめくと
なのせ給へ見いまたなのまし時なさてなく川をなち
給ひしてとおほしむてせて今のてちのゝをとれ給
おほいとのてまて中文もおとまてくおほしめせとも

いふ君のるをおほをまて志ら給のほふくすくしまふ
うちはきゝ文さちうまゝ見のへ見口のゝ九川まこる
ゝんふくしく侍従なりまふ十一まくかゝるとさて拝
春文の御まち一のあまてくおもしませて御門もいみ
志く御いとうしみなる中文もなりひなさ給おほえな
見えてせて此御くをかうに見のさ見ろさる世のまつる
も出き中納言もうを給ふにおそあるをとゝ世の人もさ
ゆかれてほとなく。中将になり給ひしそのしたら
あてく見ちてのおもひらん所志らさせまへと神佛に
もいのを給ひしさるしまや横川におもしまひとゝふを

此ひとおしあてよおもしまして（たつまかし一本）（京一本）やこ人のこゝろ
たまへる所ハとおこのしてまた法孫あるまゝ給へハあるあん
志ちに若むしく衣（とふ一本）なる所をありける立よりそゝ
しゆへハ法花經をいとまかしのにすしくのち孫ん
ふり十面んもつまゝ志の志ゆるあやしくおかえ
こゝ志のく乃人とまつきさまへハ中納言入道ことに給
くいつくよりまゝ給とこひまへハおほいとの御まて中
將殿の御山ゐりまの人とまた法ゆ給ると申事也
ごしに人はてまハことゆゑなくておもひ給へた
御らんをぬことをんもと形くおほしまゝり法るにかつも

こむしくもおもふ人のいとなきまて志のふへきにもあら
すとおほしくいなくへとの給へをいまゝ秋の志
なるつけをまにあひたる御（ナシ一本）なかし乃紅葉いふ
織うのしたるあさやの形をまた給へ法しぬさ
まとのくとりてにほむいまゝつるさまをこんさまふり
美のんちそまる中將そまり父の御のほゆのし法
にいそき入ことまへハ二三人中おもひ給るを問らんしまゝ
おとなしきなとにくいの也給ちんハまにのもりまゝる
御さゆまをふとしもこんまをまふまゝしきにまして
ハおほいとのへともさくこのにハいのて志まに給ふ面きその

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

中にまみなとのきゝのくちもとのくによりしほうくお（由一本）
きゐるとまり川にめでられるとその人は寄せてくとの浪へるに
うちよりする筆の跡くさうかひまいらする波ゆのしう
もちつむしくをしおのよゆゑ江川もささて方ちなかりつ（おもえきと一本）
るとうれしくもきつ江まつるのおとこをまつかしとう
ぷそ子ほとこつまうきのなし。入山の名のことしとらい（小一本）（こえ一本）
しに今のくこくそてまつ江そて子なりき、む人はやすき（ここにさ一本）
うくきふつのきら筆をへきはつ人のよ履きとく里深
乃御神をかはよおしあてなをきよ仲ねもおかし
のそて川もをあくせ波も浪やためらひくむらけ（くく一本）

をさふくくもあさをきをしくのはさくこのなかくねとえもの
とのみおもへる御おもかげのあるくさはあはれしくいのそらの
きえる御すのくるともえきらんと。神仏はさ（時くれ一本）
まし小萬のやうに。人の手に侍りしをやのて志るへはまく（何とありし一本）（ある一本）
もしやときさ川浮ゑにつらしなりける小おもうこまいしるを（まへれあ一本）（ますたに一本）
ほんふの國のこのなし、此ハ今ゆて志のをまらて十三年（あつし一本）
あきまつきこのあいくさのおもひ侍つるをのかなしさよのとを
せきもあへ浪をほ次みしつまて津くゆきのほう浪に（ふやせ名そま一本）
ひのうおかさのうえてあまりあはれにほそくなかれてみ
しふかはもてすらしきの　志くをへくちもそろの

ふうはくしきものゝうまみなとうちのをまくちの一本　出一本
あさまの　うちにほひたるあいきやうハまて君ゆけいと
よく似たまへる御いのとの御てとなともとひ給ふ志よき
やうてんハ唯今のさはいのこやにくいあ春ゑとゆ
ゆおとりしやのふうはくしうおもしまはなとまて大
のこにかたりも給へハさまたのにのこの出このこかまたる御
まくせのなかに出しゆゑ我身ハかくいたはらにかぬるそ
とおもせまておもひまてにしんもうちおとろかされく
むすのさワくにそうき世のはなハいまこそ外出さりなる
ぬとしまて世めになるまゝにいとワのくうはくしうおもし

せしなおもやつ出給へとも人にまゝさるへくもいんえ給
まはいろくに山風つせきまゝにへきこのともまゝまゝ
さらぬおしまきちにもこなきむけしぎくかへまゝ
まんとくかくんおきまはまて今よりハをもくまゐま
そみてまつらん殿きてれのこきおしめしなまいのに
ふしきうらせまふきまゝまゝ一本ハ
ま出をうらやましくしひゆゑえ給まんなとも給ふ出やや
ま給まはみハかうのにこまに志はこまへる御さまのかな
志くもあまは出すもおほさるちに君まゆ物にゆゑ
まゝ此世のえいくるにほてまく好の世のやうなれ
なまふないとゆゑんのやうなる世中に侍るそとて御め

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

おしのこひまゐひかへ（中将乃一本）まゐらふにも（中将の一本）ひとしき（十三一本）
おくまとくあまりしひのつさ志たひまゐひくなきさ給ひしと
きて今のやうにおほえ給ひ（さて一本）中将をうちへまゐるまゐへハ
（をうふ一本）御まへ乃せんさい御らんしいけしてあまゐ出しなまし
志とくもおほしめしまゐるまや（そ一本）御神志をこれまゐへるにに
中将ちかくまゐるまより給ひいとゝ衣なるまゐとてそ侍
法王かの御山こもりまきつ祢をまてきいめん（ナシ一本）給ひまゐ
ぬと中給へハいとめつらのなることの孔いつくにいのにしく
此の給へハ横川におはしまし（たり一本）法るすみそ給ひの神に
やはしまくかう乃のをまゐ姫かくさむしき御ありさ

身にそひきかなしくおもとてなきさ給へも中ゑも
いまさら御んこゝ出しくそ（いよく御まゐさそきれ一本）おほさ出しくるさてそのち（あさ一本）
二位の中納言になるまゐひ春ゑも八もかまにおはし
ませもいよしうつくしうせこのくて御んもおとなし
くよをたもち給ともいのにうこかひあるましうゐんえ
させおはしまゐあくるまちを御門御くらゐさらせ
給くまちゑくらゐにはさ給かの中ゑを女院とそ
中（いまれまゐる一本）ゐる中納言後もおほさおはいとのく中君にかよ
ひ給くちゝ中納言とのに（本ノ言のくことなくて一本）ゐへ（ゐ）おりゑさまにて
すこし給ふまうたいの御門を御くんふくあまりけり

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

いつしの左大将乃姫君女御にまゐるを給ぬ中納言
とのハかの山たちをもまえ給ひてさるへき
ものなと(ナシ一本)はしたのもしをりくれてつまくつ人なり給
へるとそ

入風葉集缺物語歌

ないしのかみつましなきさまふこえをまつまはれ
七日のうまれせはる　志のむ祢のこかとの御ふの
秋上
今日さへやうにくらさんたなまたの遊歌ハ空のよ流は空つ
せちうり思ひはる女よんよもあらはる雨ふつます
はしまたよをそむうんとくいさくのさまちよりて
志のむね(ふ一本)乃中将
雜三
りまを何ちきまはんとひいるふちふ空のかまはる世を
ほいとそくのちお所し人のもとにさしおその世
手ふ

丹鶴叢書目錄

丁未帙

正中御飾記一卷

內宮御神寶記一卷

右二部原本丹鶴書院藏

後水尾院當時年中行事二卷

右原本村田春野藏

春記三卷　同裏文書

右原本中山侈前守信守朝臣藏

九條右大臣集一卷

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

御堂関白集一巻　右二部原本丹鶴書院蔵
藤原家経朝臣集一巻　右原本仲田顯忠蔵
和泉式部續集二巻　右原本井上文雄蔵
源重之女集一巻
小侍従集一巻
殷富門院大輔集一巻　右三部原本仲田顯忠蔵
風尓津連奈幾物語一巻　右原本新見伊賀守正路朝臣蔵
已上捴十二部十五巻或分或合為十一本
戊申帙
釋奠供物圖一巻
諸陵雜事注文一巻
雜筆要集一巻　右三部原本村田春野蔵
春記十一巻

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

右原本松平越中守定猷朝臣蔵
室町殿春日詣記一巻
右原本村田春野蔵
拾弓藤割次第一巻
諸鞍日記一巻
九條家車圖一巻
西園寺家車圖一巻
右四部原本田口千頴蔵
萬代和歌集二十巻
前參議教長卿集六巻
濱松中納言物語四巻
乙寺縁起一巻
右四部原本丹鶴書院蔵
已上捴十三部五十巻為三十九本
乙酉帙
侍中群要十巻
右原本松岡明義蔵
信實朝臣集一巻
草根集十五巻
右二部原本丹鶴書院蔵

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

繪師草紙一卷
右原本小田切直蔵同人縮写之
蒙古襲来繪詞三卷
右原本高島千春蔵同人縮写之
已上捴五部三十卷為二十四本

庚戌帙
三中口傳五卷
今昔物語自第廿二至第卅一二十卷
忍音物語一卷
右原本丹鶴書院蔵

已上三部十六卷為二十七本

辛亥帙

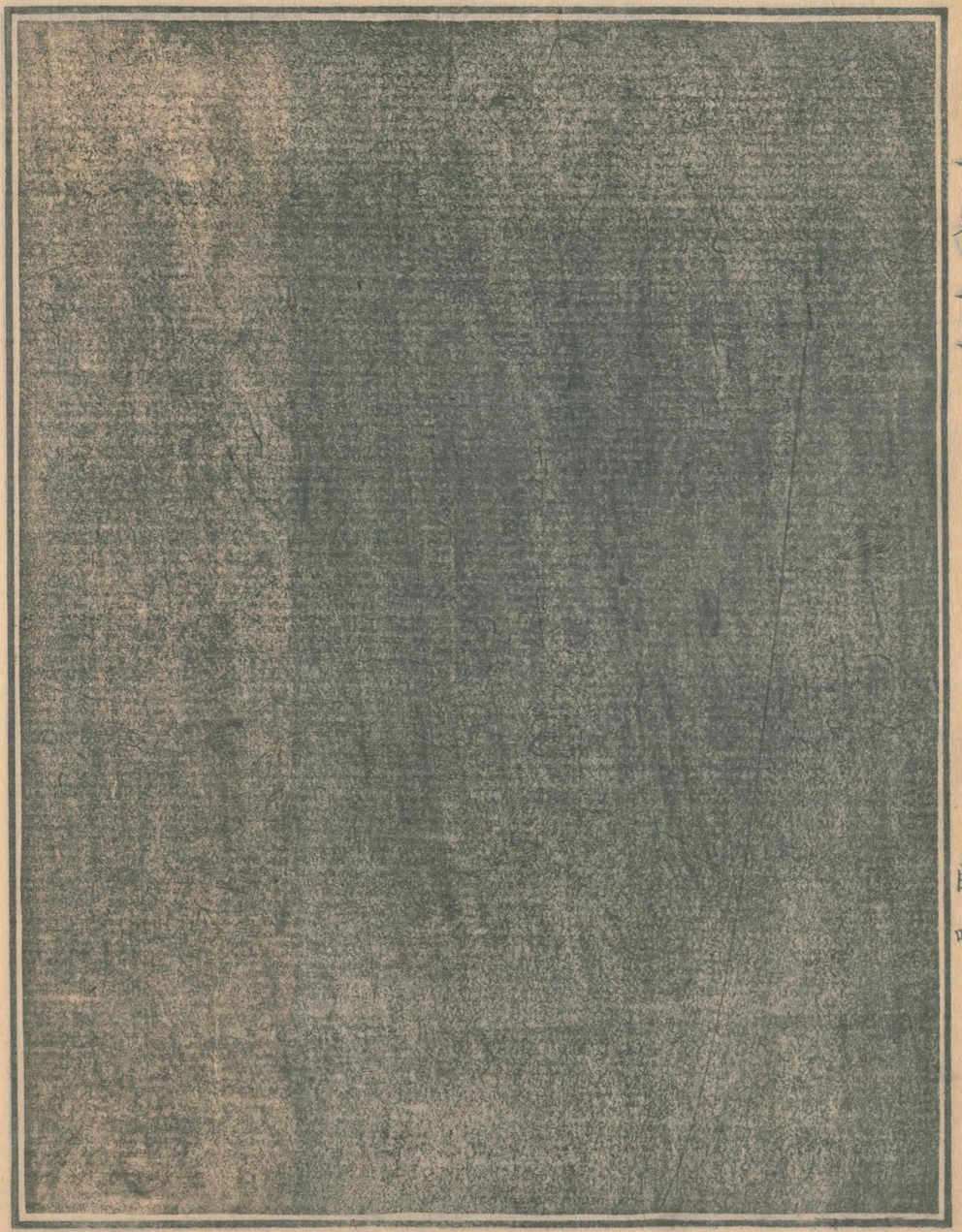
嗣剞

117
105
2

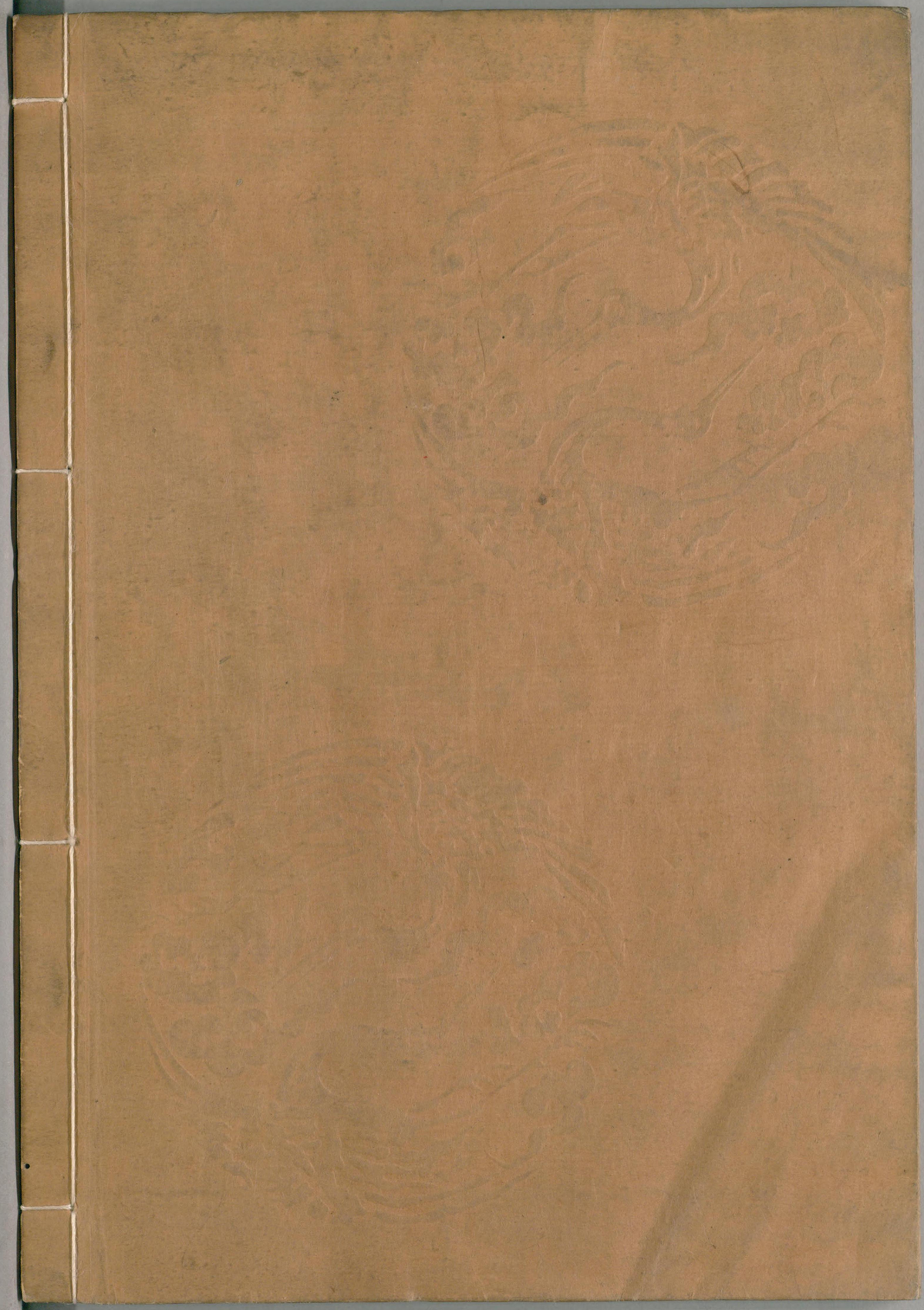
丹鶴叢書

賣弘所
三都書肆

京都三条通弁屋町　出雲寺文次郎
大阪心齋橋通安堂寺町　秋田屋太右衛門
江戸芝神明前　岡田屋嘉七
同鍛治橋五郎兵衛町　中屋徳兵衛



国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2

ガラス使用